NEXT 通巻 94 号　　平成 27 年 6 月 30 日　　（毎年 6 月発行）

Next

発行所　一般社団法人 茨城県建設業協会
建設未来協議会
〒310-0062　茨城県水戸市大町 3-1-22
電話　029（221）5126 ㈹
ホームページ　http://www.miraikyo.com
発行人　増　子　秀　典
編　集　日本工業経済新聞社水戸支局

平成27年度基本方針

建設未来協議会　会長　増　子　秀　典

アベノミクスによる公共事業の復調に続き、2020年の東京五輪開催、2027年の開業を目指すリニア中央新幹線の建設など、建設業全体に追い風が続くような報道があるが、　その一方で、我々地方の建設会社は労務費や資材費の高騰が業界の懸念材料となっており、各地の公共工事では入札不調も相次いでおります。

それは各社が仕事を選別しているのではなく、その予算では行えないという事実であります。東北地方の復旧・復興で労務単価が高騰し、その流れが我々の地元にも確実に及んできております。建設投資が減少している間、価格競争による受注高の減少やダンピング受注が企業の利益を押し下げ、建設業がかなり熾烈な競争をした結果、そのシワ寄せが末端の作業員に行ってしまったと考えます。建設業に見切りをつけ転職してしまった方、これから社会人となる若者は特に『3K+それに見合う報酬が出ない』というイメージがつきまとい若手の技術者が入職されない現状では、業界を目指す人間が出てくるはずがないと考えます。

現状のままでは、人手不足がボトルネックとなって、今後の建設投資が消化しきれない可能性や、さらには現場の施工機能が低下し、将来にわたる技術継承が難しくなるだけでなく、社会インフラや災害対応の担い手として、地域を支える事も困難になる可能性があります。

こういった人手不足の問題が露呈したことで、世の中の関心がようやく技能労働者の待遇問題に向いてくれたことにより、最近の労務単価の引き上げに繋がり、我々にとって非常にありがたいことですが、まだまだ低賃金が一足飛びで解消されたわけではありません。

建設未来協議会は、こういった問題を解決する為に、協会本部と連携を取り、会員一人一人が建設現場の現実に目を向け、事業を継承していくのに必要な若手技術者の確保として引き続き現場見学会や現場実習を行い、今後はその対象を一般の高校生にまで幅広く広げていこうと考えております。

広報戦略としても各委員会や建設フェスタを通して、影響力が大きいテレビ、新聞、ラジオ等のマスコミ関係への働きかけ、ソーシャルメディアの積極的な活用などで社会資本の必要性、建設業のイメージアップを一般の方々に積極的に発信していくことを継続して行っていきます。

また、今まで長年続けてきた国土交通省や茨城県との意見交換会も建設未来協議会らしい視点で続け、現場代理人と最前線でやり取りしている我々と同年代の方と日ごろの課題、問題点などを意見交換し、共に成長していきたいと考えます。

我々建設業は教育などと同様に未来を担う『未来産業、将来産業』であることを誇りに、全会員が一丸となって時代の変化に柔軟に対応して活動して参ります。

本年も当協会の運営に協会本部・会員並びに関係各位の皆様の、より一層のご支援・ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成27年度 第23回定時総会を開催

総務委員会　委員長　櫻井　俊一

定時総会では27年度の事業計画などを決定しました

茨城県建設業協会の丸田副会長

茨城県土木部の澤田総括技監

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の水島所長

本協議会の第 23 回定時総会が 5 月 15 日、ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸にて会員 69 名、茨城県より澤田勝土木部総括技監、関東地方整備局より水島徹治常陸河川国道事務所長、（一社）茨城県建設業協会から丸田康弘副会長など多数のご来賓の方々の出席のもと盛大に開催されました。

冒頭、梅原会長より「受発注者がパートナーシップを保ち、さらなる研さんに努める事が大切。また中長期的における担い手確保育成は、双方が膝を交えシステムをリノベーションする必要がある。」と挨拶。続いて協会本部丸田副会長より、「建設業を取巻く環境は厳しいが、担い手 3 法など我々に追い風が続いている。地域貢献活動などを通じて地域建設産業の活性化を図るため、建設未来協議会と一体となって活動してまいりたい。」と御祝辞をいただきました。

議事では 7 議案について慎重審議し、全会一致で原案どおりに可決。役員改選では会長に増子秀典氏（増子建設㈱）、副会長に小林圭一氏（谷原建設㈱）、大橋一博氏（森田建設工業㈱）、吉田長邦氏（㈱吉田組）らの選任を決定。増子新会長から「責任の重さに身の引き締まる思い。建設業が未来を担う産業である事を誇りに思い積極的に活動したい。皆様の御指導・御協力をいただきながらまい進したい。」と挨拶。

議事終了後の来賓挨拶では、澤田土木部総括技監より「本年度が集中復興期間の最終年度で大幅増の予算が投じられる。平準化に配慮しながら進めたい。」と説明。また担い手確保と育成について「公共事業は夢をつくる事業。建設産業の役割を外にアピールするよう皆様と積極的に活動したい。」続いて水島常陸河川国道事務所長より、県内の代表的な事業、道路メンテナンス会議、首都圏直下地震対策、建設フェスタでの連携など各種取り組みについての説明の後、「震災対応については皆さんのおかげで被害を最小限に止められた。皆さんが元気になれば地域が元気になる。これからの活躍を祈念する。」と御来賓お二方より御挨拶をいただきました。

平成 27 年度も建設未来協議会の活動に関しまして、関係各位皆様の御指導・御協力のほどよろしくお願いいたします。

行政機関と意見交換会を開催しました

茨城県土木部

総務委員会　副委員長　河野　真

平成 26 年 10 月９日（木）茨城県建設業協会５階会議室において、茨城県土木部と建設未来協議会の意見交換会を開催しました。

茨城県土木部から藤枝宏之総括技監、青沼文彦技監兼検査指導課長をはじめ、検査指導課・監理課より多くの方々がご出席下さいました。

意見交換会に先立ち、梅原会長より「震災から３年７ヶ月が経ち復興も概ね完了してきた。今後の建設業を考えていくと「変化」と言う言葉がキーワードになってくるのではないか。担い手３法が閣議決定され進められている。建設業の女性の活用など今までなかった変化が求められている。また安心・安全に暮らせる町づくりという点で、災害協定等の見直しも必要ではないか。本日は現場の生の声を聞いて頂きたいと思います。」と挨拶。続いて、藤枝宏之土木部総括技監より「日頃より建設フェスタや CCI 活動などを通し、担い手の確保に努めている皆さんの活動については、一過性のものではなく地道にやっていかなければならない事だと改めて感じている。長く続けていくことでいろいろな「変化」をさせていくことが大切だと思う。また 10 月より積算方式が変わる事により、課題であった維持修繕や小規模工事の積算の改善に繋がればと思う。本日は活発な意見交換会となるようよろしくお願いします。」と挨拶を頂きました。

意見交換会では、茨城県土木部・未来協議会双方の情報提供に始まり、続いて未来協議会からの質疑についてご回答をいただきました。

また「今後の公共工事の展望について」「若年労働者・技術者の入職について」というテーマのもとフリーディスカッション形式で意見交換を行いました。

それぞれの質疑・要望に対し県土木部の皆様には大変熱心に前向きなご回答をいただき有意義な意見交換会となりました。

関東地方整備局 常陸河川国道事務所

総務委員会　副委員長　長山 朋之

平成 26 年 12 月４日（木）、常陸河川国道事務所会議室において、意見交換会を開催しました。

常陸河川国道事務所から水島徹治事務所長、辰野剛志副所長、外川和彦副所長、常陸海浜公園事務所から藤井弘造事務所長をはじめ、両事務所から多くの方々がご出席下さいました。

冒頭、水島所長より「防災における取り組みとして、災害対応・緊急復旧工事におけるご協力をお願いしたい。また、公共事業費削減という世流の中で、世間に対しての人的・物的資源が足りないという答え方は、公共事業が過多になっているという解釈につながってしまうことに留意して頂きたい。」と、各人の発言が公共事業の数の増減に影響を及ぼしているということを述べられました。

続いて、梅原会長は「ダンピング防止、歩切りの撤廃について評価したい。担い手育成については、法整備によって改善されつつある。施工プロセスの仕組みはさほど変化していないが、我々が抱えている現場からの生の声を提起する場としての意見交換会を期待したい。」と挨拶されました。

常陸河川国道事務所、常陸海浜公園事務所及び建設未来協議会の事業紹介にはじまり、常陸河川国道事務所からの情報提供として、

- **総合評価落札方式の適用ガイドラインについて**
- **建設産業行政の最近の動きについて**
- **NETIS 活用効果調査表の作成について**
- **再生アスファルトの利用促進について**

意見交換として、

- **入札、契約手続きのポイント**
- **施工体制等のポイント**　・**品質証明関係**
- **設計図書関係**　・**現場管理関係**　・**その他**

以上について、発注者・受注者それぞれの立場から意見交換されました。

最後に、藤井常陸海浜公園事務所長から「試行工事の中で、改善要望等をどんどん挙げて頂きたい。お互いに悩みを共有し、意思疎通を図っていきたい。」と述べられ、盛況のうちに閉会となりました。

「建設フェスタ２０14」開催!!

地域貢献活動委員会　下田　亜紀子

昨年 11 月 9 日（日）、第 21 回目となる建設フェスタが、ひたちなか市の笠松運動公園にて開催されました。

開催にあたり会員の皆様、茨城県土木部をはじめとする各協賛団体の皆様には、事前準備そして当日早朝よりご協力頂きありがとうございました。無事に開催できました事をとても嬉しく思っております。

ミニ上棟式にはたくさんの子供達が集まりました

当日はどんよりとした肌寒い天候の中、本部席では「てるてる坊主」を設置するなどし、雨が降らない事を願っておりましたが、「清心・たかば保育園」による太鼓演奏中、バケツをひっくり返したような大雨になり、演奏を中止せざるを得ないハプニングに見舞われました。そんな中でも来場者数が減る事なく、直ぐに天気が回復した事もあってか、12,500 人もの方々にお越し頂く事ができました。

今回から試みたチャリティーバザーでは、各協賛団体に多種多様な景品をご提供頂き、お客様だけでなく当会員の間でも人気商品の争奪戦が繰り広げられました。その甲斐もあって、例年にない売上となり収益金 105,370 円を配分の上、「骨髄バンクを支援するいばらきの会」と「茨城新聞文化福祉事業団」、「読売新聞 読売光と愛の事業団」様へ慈善金として寄付させて頂きました。

ボトルキャップアート

親子競演丸太切り

各団体様のブースでも行列が出来るほどの人気ぶりで、建設業のイメージが「きつい」「汚い」「危険」という、これまでのいわゆる 3K から「かっこいい」「安全」「丁寧」に変化してきているのでは？と感じました。建設業に携わっている一員として今後も「建設フェスタ」を通じて、未来を担う子供達に建設業の物づくりの楽しさ、そしてやりがいを伝えられるようこの事業を継続していきたいと思っています。

今回から試みたチャリティーバザー

最後になりますが開催にご尽力頂いた茨城県土木部様、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所様をはじめとする発注者各位、各協賛団体の皆様に改めて御礼申し上げますとともに、今後ともご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

境町利根川河川敷にて『第2回 建設ふれあい祭り』

建設未来協議会　相談役　菊地　和幸

平成26年8月23日に境町利根川河川敷にて「第2回建設ふれあい祭り」を開催いたしました。主に古河市・坂東市・境町・五霞町の子供たちを対象に告知・PRを行い、1200人のお客様にご来場いただきました。

このふれあい祭りは「地域の子供たちに夏休みの思い出をプレゼントしよう!」が基本コンセプトです。子供たちは働く機械が大好きですが、工事現場は危険でもあり、立ち入りは禁止されているので、簡単には近づけません。重機に乗ったりしてみたいという声を聞くようになり、何とかその夢を叶えてあげることはできないか?と話し合いました。話し合ってみれば、建設機械ならば自分たちが所有しているものばかりです。イベントとして重機の搭乗体験をやってみよう!となったのが建設ふれあい祭りの始まりでした。

前日準備では未来協議会境支部の会員と県西地区会の人員で準備を行い、各社が所有している「社名入りの機械」をたくさん持ち寄りました。バックホウ8台・タイヤショベル2台・タイヤローラー1台・ブルドーザー1台・高所作業車1台・アスファルトフィニッシャー1台・草刈機1台と多くの重機が揃いました。安全面では前年の反省をもとにカラーコーン・バーを300セット用意し会場を設営しました。

1200人のお客様にご来場いただきました

開催当日は晴天に恵まれ朝早くから多くの家族連れで賑わい、子供たちの明るい声と笑顔がたくさんあふれていました。今回は会場でアンケートを実施し、来場者皆さんの声を聞かせていただきました。来年も来てくれますか?の問いには「96%が来たい」との回答。建設業へのイメージは「大変良いが55%」「良いが40%」「普通が5%」との結果でした。その他イベントの感想として「非常に楽しかった」「カッコイイ」「来年も開催してほしい」「皆さんやさしかった」「親子で楽しく過ごせました」など嬉しい声をいただきました。また「小学校だけでなく幼稚園にも告知してほしい」「順番整理をしてほしい」「熱中症が心配」などのご意見をいただきました。このご意見に関しましては、より良いイベントとなりますよう次回から改善していきたいと思います。

重機体験に興味津々

日頃、地域の皆様には工事などでご不便をおかけしてばかりです。あまり良いイメージを持たれていないとばかり思っていましたが、そんな事は全くありませんでした。我々のやっている仕事はこうして子供たちを喜ばすことができ、家族で楽しんでいただける仕事であると気づくことができました。そしてこれまで3Kなどと言われてきた職業ですが、重機に乗る子供たちと家族の笑顔を見て、建設業に携わる一員としての自信を取り戻すきっかけにもなりました。ふれあい祭りは地域貢献活動との位置づけですが、逆に建設業というものの存在価値を我々が地域の皆様から教えていただいたイベントでもあると思います。

こうして地域の皆様とふれあう貴重なイベント。息の長いイベントとなるよう今後も活動していきます。

子どもの遊び場 安全で衛生的に ～砂場クリーン作戦～

地域貢献活動委員会　副委員長　内藤　裕一郎

以前より子供達が遊ぶ砂場は衛生管理が不十分な箇所が多いと言われております。その様な不衛生な状況を改善し安全で衛生的な砂場に再生し、子供達が安心して遊べる砂場環境を提供する事ができないだろうか？という目的のもと当委員会の新たな活動の一環として「砂場クリーン作戦」と題し、記念すべき第一回目を昨年 6 月 17 日にひたちなか市の「社会福祉法人くすのき会 勝田あすなろ保育園」にて開催しました。

今回が初めての活動のため、準備品や時間・人数の配分などの実施計画の立案には大変苦労しました。また、屋外での活動で天候の影響を受けるため、予備日の設定や保育園側との調整などに苦慮しましたが、当日は晴天に恵まれ無事開催に至りました。園児達も 25℃を超える暑さの中、砂ふるいやスコップに乗った砂の重みを一所懸命体験してくれました。作業工程としては①スコップ等を使用し砂場外へ砂を出す掘り出し作業→②砂ふるい機とふるい分け網を併用してふるい分け作業→③消毒液を散布して除抗菌作業→④犬猫等の糞尿害予防のため動物除けネット設置、という工程で行いました。その結果、直径 2.3 メートルの砂場の中から土のう袋で 5 つ分の小石・枯葉・異物・おもちゃなどを除去する事ができました。保育園の先生方からは「いつもきれいにしていると思っていた砂場からこんなにゴミが出てくるとは思わなかった。」という感想を頂きました。当日は皆様のご協力のお蔭で、トラブルや準備不足等もなくスムーズに進行する事ができました。

園児も砂ふるいなどを一所懸命体験してくれました

結びに、今回の活動に際しまして全面的にご協力頂きました「社会福祉法人くすのき会 勝田あすなろ保育園様」に感謝を申し上げると共に、地域貢献活動委員会のメンバーの皆様に厚く御礼申し上げます。平成 27 年度もこの事業は継続する事に決定しましたので、引き続き変わらぬご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。

鹿行地区でテーブル製作体験学習

「児童養護施設るんびにー」にて

地域貢献活動委員会　副委員長　小野口　整慶

去る平成 26 年 8 月 21 日に行方市「児童養護施設るんびにー」にて体験学習を開催しました。

我々鹿行地区会は毎年、小学生・養護施設等の子供達に対し「考え・工夫し・物を作ることは楽しいんだよ」と感じてもらえるようにとの思いから、ベンチ付テーブルの製作体験学習を 15 年以上に渡り実施しております。

例年ですと小学校の授業中に行っているため、時間制限がありベンチ付きテーブル組立完成後、生徒達がテーブルで給食を食べ終了することが通例でした。しかし今回は夏休み期間で時間的に余裕もあり、年齢層も小学生から高校生までと幅広く体験学習終了後にバーベキューをする計画も立てました。

午前中は子供達にテーブルの組立て図面を見せながら、「図面を見ながらよく考えて作ってごらん。」と当会のメンバーは出来る限り手を出さず「インパクトを使うときは手元に注意して使うんだよ。」など道具の使い方などの諸注意、最小限の手伝いのみで作業を進めさせました。「あれ～ここに入る木のところに穴が開いてないよ～？」「どれどれ見せてごらん。あぁ～ここの材料が左右逆だから、穴の位置が逆になっちゃったんだね（笑）残念だけどばらしてもう一度組み直そうか（笑）」等々子供達はいろいろな表情を見せながら一生懸命組立作業を行いました。

また別のグループはバーベキューをする準備を行い「このあたりに釜戸を作ろうか？」「ここはテントを並べた方がいいのでは？」「よっし！準備 OK ！」といろいろな知恵を出し合いながら普段あまり経験できないことを楽しんでいる様子でした。

ベンチ付テーブルの製作体験

さて、午後からは子供達が待ちに待ったバーベキューの始まりです。体験学習がメイン行事でしたが、やはりそこは育ち盛りの子供達です。バーベキューの方が楽しそうにしていたのはご愛敬です。お腹いっぱいにバーベキューを楽しみ、レクリエーションでは定番のスイカ割りを行い、例年に無い盛り上がりを見せ体験学習は終了しました。

また後日子供達からお礼の手紙を頂きました。どの子供達からも「テーブル作り楽しかったです。」「ありがとうございました。」「バーベキュー美味しかったです。」等々の言葉をいただき、多少なりとも子供達のためには成ったかなと思い目頭が熱く成りました。

＜児童養護施設るんびにーとは＞

児童福祉法に基づく児童養護施設です。満 18 歳未満でさまざまな要因で環境上、養護を必要とする子供たちが児童相談所を通して入所してきます。一人ひとりの子供達の発達を見守り、生活を共にしながら支援を行い、健全な社会人の一人として生きていけるよう養育している施設です。

次世代担う高校生ら建設業を体感！

現場見学会・現場実習を開催

副会長（人材・システム委員会担当）　大橋　一博

橋梁工事の現場見学会

次世代を担う高校生・専門学校・大学生等を対象に建設事業の正しい理解とその魅力を伝える為、毎年現場実習及び現場見学会を実施しております。

前年度の現場見学会は、高校・専門学校・大学等 8 校から合計 493 名が参加。9 月から 11 月にかけて各発注者・各企業の御協力のもと合計 11 回開催しました。また現場実習では 7 月から 10 月まで会員企業 42 事業所の御協力のもと、高校 4 校 71 名・専門学校 3 校 38 名を受け入れていただきました。

現下、建設業界は技術労働者の高齢化が進む中、若年入職者の減少や若年層の離職率の増加により担い手不足が懸念され、技術労働の確保・育成が喫緊の課題となっています。

今後も現場実習及び現場見学会を通じ、建設業へのイメージや魅力を伝えるべく、学校関係者と連携をとりながら実施して参りますので、会員皆様のご協力をお願い致します。

最後にこの事業にご協力頂きました茨城県土木部様・国土交通省様、実習生・見学生を快く受け入れて頂きました会員企業の皆様に心から感謝申し上げます。

学生が現場実習を体験

高等特別支援学校生を受け入れて

現場実習の体験を通して社会貢献

地域貢献活動委員会　委員長　大曽根　理一郎

皆さん「特別支援学校」とはどういう学校かご存知でしょうか。改正学校教育法が施行された2007年４月にそれまで盲学校、聾学校、養護学校と呼ばれていた学校が校名を変更（すべての学校が変更されたわけではない）したものであり、障害者等が「幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準じた教育を受ける事」と「学習上または生活上の困難を克服し自立が図られる事」を目的としている学校です。

今回弊社で受け入れた生徒は、義務教育の課程を修了した軽度の知的障害を有する方を支援対象とする「茨城県立水戸高等特別支援学校」の１年生の男子生徒でした。

実習生（生徒）を受け入れるにあたっては、特別支援学校生に対する我々の知識が非常に乏しく、不安な面もありましたが、受け入れた結果、彼らに対する我々の見方は大きく変わった様に感じております。確かに障害の程度が軽いという事はありますが、仕事に対する取組み、挨拶等を見ていても、健常者となんら変わる部分はありませんし、むしろ時折目にする現代のゆとり教育の弊害を一身に受けたかの様な一般の高校生と比べ、はるかに立派な実習態度でした。今回の実習では生徒だけではなく我々受け入れる側も、障害とは何か。我々が社会において何が出来るのか等、様々な事を学ばせて頂きました。今後も社会貢献活動の一環として、現場実習等を通し社会の一端に触れてもらう事で、彼らの将来の自立を支援すると共に、受け入れる我々も同じ社会で共生する一員として、互いに理解を深め、互いに成長していける機会を作っていければと考えております。

最後になりますが、日々生徒を支える特別支援学校関係者の皆様に心より敬意を表すると共に、今回ご指導、ご協力を頂いた建設未来協議会々員の皆様に厚く御礼申し上げます。

中学生にものづくりの楽しさ教える

～ 筑西市立下館北中学校で木造倉庫の建設体験 ～

建設未来協議会　監事　柴　直樹

校倉工法による組立作業

平成 26 年度の CCI 茨城（茨城県魅力ある建設業推進連絡会議）「建設業体験学習」は 10 月 1 日、16 日、11 月 11 日の 3 日間、筑西市立下館北中学校の 2 年生 49 名を対象に実施しました。

1 日目は、開会式後に 3 班に分かれ「木造倉庫の基礎工事」「測量体験」「直角三角形を作ろう」を交代で行いました。基礎工事では鉄筋の結束を行いましたが、なかなかうまくハッカーを使いこなせず、生徒たちは四苦八苦していました。測量体験ではレベルを使い、平らに見えるグラウンドも予想以上に高低差があることにびっくりしたり、光波で距離と角度が瞬時に測定できることに興味津々の様子でした。最後にみんなで基礎コンクリートの打設と金コテで均し作業を行い、人力作業の大変さ、コンクリートを平らに均すことの難しさを体験しました。

木造倉庫が完成

2 日目は校倉工法による組立作業と重機操作体験を実施しました。角材を柱にはめ込み、ビスを打ち込んで積み上げていく工法でしたが、生徒たちは夢中になり過ぎてしまい、真っ直ぐ建っているか心配ですが、頑丈に組みあがりました。重機操作体験では（株）イバジュウ様の御提供で、バックホウ 2 台・タイヤローラー 1 台を使って、実際に掘削作業と転圧作業を行いました。生徒たちは真剣な表情で、緊張しながらも楽しんでいる様子でした。

重機操作を体験

3 日目は当初予定になかった塗装を体験しました。簡単に思えた作業でも、ムラができたり、脚立の上で不安定な場所での作業の難しさを体験できました。

完成した建物は「北の小屋」（きたのえき）と命名され、12 月 1 日の引渡式を経て、学校へ寄贈されました。「北の小屋」は自分たちが作ったものを大切に使いたいとのことで、現在救護休憩室として有効活用されているとのことです。

この体験学習に参加された 49 名の生徒たちには、少なからず物造りの楽しさ、難しさ、そして喜びが記憶に刻まれたと思います。今回の体験学習を通し、建設業が将来の職業の選択肢の一つに加わってくれることを願うと同時に、そんな子供たちの為にも『魅力ある建設業』にしていかねばならない私たちの責任も改めて感じました。

最後に体験学習にご協力いただきました茨城県土木部検査指導課、（一社）茨城県建設業協会をはじめ多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

委員会紹介

総務委員会

担当副会長　小林　圭一　　委員長　櫻井　俊一

当委員会は定時総会・親睦行事の企画・運営をはじめ、茨城県土木部及び国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所との意見交換会を開催しております。各発注機関との意見交換会では技術・品質の更なる向上のため、受発注者間での問題・課題等について提起し、各発注者様の御協力のもと、非常に有意義な意見交換会となっております。

また季刊誌 NEXT の発行、ホームページの更新管理等多岐にわたり活動しております。

今年度も会員各位への連絡調整、情報提供等へ努めてまいりますので皆様の御協力をよろしくお願いします。

＜今年度の主な事業＞

○総会・親睦行事・役員会の企画運営
○季刊誌 NEXT の企画・編集・発行
○ホームページの更新管理　○各発注機関との意見交換会
○予算・決算に関する業務　○会員各位への連絡調整・情報提供

地域貢献活動委員会

担当副会長　吉田　長邦　　委員長　大曽根　理一郎

当委員会の担当事業は、主に「建設フェスタ」の企画・運営です。建設産業の魅力を伝えるべくこれまで 21 回にわたり建設フェスタを開催して参りました。これからも魅力的で活気溢れる建設フェスタとなる様に委員一同努力して参ります。又、昨年度はじめて実施した「砂場クリーン作戦」を今年度も実施し、子供達が安心して遊べる砂場環境作りを地域貢献活動の一環として実施する予定です。更に今年度からは、所属委員の人間力を高め、各々の会社の発展、延いては建設産業の発展に貢献出来る様、研修活動にも取組んで行こうと考えております。末筆ではございますが、今年度も皆様のご協力を賜ります様、何卒宜しく御願い申し上げます。

＜今年度の主な事業＞

○建設フェスタ 2015 の企画・運営
○献血・骨髄バンク登録事業への協力
○保育園等の砂場清掃奉仕活動

人材・システム委員会

担当副会長　大橋　一博　　委員長　高田　稔美

人材・システム委員会では高校生、専門学校生を対象にした現場見学会・現場実習を通して、今後の建設業を担う世代に建設業の魅力・必要性を理解してもらえるよう活動しております。また SNS を活用した情報共有ツールを構築し、緊急時の連絡手段の確保、情報共有の仕組みを構築します。さらに経営力強化のための講習会を企画し、時代のニーズに沿った学びの機会や研究を通して、未来の建設業の発展に寄与するべく委員会活動に取り組んでまいります。

＜今年度の主な事業＞

○高校生・専門学校生の現場見学会の実施
○高校生・専門学校生の現場実習の実施
○高校・専門学校教師との意見交換会
○経営力強化のための勉強会・講習会の開催
○ SNS を活用した情報共有ツールの構築・研究
○未来の建設業についての調査研究等

● 平成26年度入会者

地　区	氏　名	商　号
水　戸	秋山　正人	㈱秋山工務店
水　戸	髙橋　順子	高橋建設工業㈱
水　戸	田口　富之	㈱田口工務店
鹿　行	石津　松吾	石津産業㈱
鹿　行	石津　弘敏	常総開発工業㈱
鹿　行	犬塚　正一	㈱和城産業
鹿　行	城内　浩和	㈱大平工業

地　区	氏　名	商　号
大宮・大子	大森　裕一郎	大森建設㈱
大宮・大子	齋藤　靖弘	㈲サイトウ緑地開発
大宮・大子	髙野　弘康	㈱髙野工務店
大宮・大子	生田目　憲明	㈱進栄
県　南	鈴木　亮	北都建設工業㈱
県　南	塚原　健一	㈱塚原建設
県　西	新井　邦幸	㈱新井建設工業

● 平成27年度入会者

地　区	氏　名	商　号
鹿　行	軍司　修利	軍司建設㈱
大宮・大子	柳瀬　香織	海老根建設㈱

● 卒業された皆さん

地　区	氏　名	商　号
水　戸	柴山　正之	㈱柴山土建
高萩・太田	飛田　純一	㈲飛田組
大宮・大子	小池　修一	㈱ユニバーサル建設工業
大宮・大子	山崎　剛	西野工業㈱

地　区	氏　名	商　号
大宮・大子	龍崎　眞一	㈱龍崎工務店
県　南	折本　英敏	㈱折本工業
県　西	小林　敏勝	㈱小林建設
県　西	端　利一	㈱端工務店

編集後記

日本は世界的に見て治安の良い国です。
それでも車両盗難の話をよく耳にします。
茨城県は盗難件数で2013年全国3位、2014年は4位でした。ちなみに1位は愛知県、最下位は高知県でした。

最近はプリウスの盗難件数がトップとなっていますが、トラックの盗難も上位を占めています。

建設業界でも車両重機盗難に対し、警備会社と連携した防犯カメラの設置等の防犯対策を行うことが一般的になってきていますが、それでも被害が後を絶たないのが現状です。

製造メーカー・使用者側がどんなに盗難対策を行っても、窃盗団といたちごっこになっているのが現状ではないでしょうか。しかしながら継続して盗難対策を行うことにより窃盗団が減少していくことを願うばかりです。

（I・A）